

【日本の大学】第 57 回——福井大学：知識・学問深める「格致」の精神

福井大学は日本海側の福井県にあり、教育学部、医学部、工学部、国際地域学部という 4 学部を持つ中堅の国立大学である。教育学部は明治時代の初めに創立された師範学校から続く長い歴史がある。



シンボル総合研究棟 I

大学ではその理念でも謳っているように、幕末から明治にかけて福井藩の藩主であり、政治家として当時の日本の政治にも影響を及ぼした松平慶永（春嶽）の存在が大きなバックボーンとなっている。春嶽公が揮毫した「格致」の額面は大学の宝となっている。「格致」とは「あらゆることに触れて学び、物事の道理や本質を深く追求し、理解して、知識や学問を深め得ること」という意味である。学生にとっては、学びと人格育成に際し、教職員においては、研究・教育・社会貢献などで自らの指針となる語句であり、福井大学人にとっては、この語句を旨とし、県内から世界に至る様々な地域において、そこに集う人、ならびに社会の未来を拓くことに主体的にかかわり、貢献することを目指すための指標となっている。



「格致」の額面

つながる教育の伝統

以下、福井大学のホームページなどから大学の全体像を俯瞰してみたい。

大学につながる歴史として最も古いのが、明治時代初期の 1873 年に創立された小学師範学科（福井中学）である。その後、敦賀県師範学校、県立福井小学師範学校などと改称。小浜にも県立小学師範学校（1881 年）ができたり、鯖江には女子師範学校が設立（1928 年）されたりしたあと、第 2 次大戦中の 1943 年に、それらが統合されて官立福井師範学校となった。

戦後の 1949 年に学制改革によって新制の福井大学が誕生した。その際、学芸学部と工学部の 2 学部だったが、このうち学芸学部の母体となったのが、官立福井師範学校と第 2 次大戦前（1938 年）に設立された福井青年師範学校であった。

学芸学部は、小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、学芸課程からなり、同時に附属小・中学校を設置した。学芸学部は 1966 年に教育学部に改称。附属幼稚園（67 年）や附属養護学校（71 年）を設置し、附属教育実践研究指導センターも開設（79 年）している。1988 年には情報社会文化課程を置いたほか、92 年には大学院の修士課程を設置している。

1999年には教育学部を教育地域科学部に改称、課程を学校教育、地域文化、地域社会の3課程に再編したが、2016年には、教育地域科学部を、再び教育学部に戻している。初等教育コースと中等教育コースからなり、社会の変化に応じた学校教育を担う教員を養成する。教科や教育学の専門知識を深めるだけでなく、「探究ネットワーク」や「ライフパートナー」など、子どもたちとともに活動する「教育実践研究」を初年次からカリキュラムの中心に据えて、新たな学びを展開できる実践的指導力を養う。



総合研究棟Ⅴ（教育系1号館）

大学院では、特色のある教育スタイルである「学校拠点方式」を採用し、小・中・高・特殊支援学校などの現場を学びの場としている。大学院生は拠点校のサイクルに合わせた長期のインターンシップ実習を行う。奈良女子大学、岐阜聖徳学園大学と連合教職開発研究科（教職大学院）を2018年に設置して、各々の実践研究を共有しながら、高度な専門的能力と優れた資質を有し、学び続けることのできる教員の養成を目指している。

工学部に継承されたのは、1923年に創立された福井高等工業学校である。その後、福井工業専門学校となり、大学発足とともに工学部となった。工学部はスタート時、建築学科、紡織学科、繊維染科学科の3学科だったが、1951年には機械学科、電気学科が加わった。

その後、応用物理学科の設置（1960年）、機械学科を機械工学科、電気学科を電気工学科に改称（1961年）、工業化学科の設置、紡績学科を繊維工学科に改称（62年）産業機械工学

科の設置と大学院修士課程の設置（65年）、電子工学科（67年）、建設工学科（68年）、情報工学科（75年）など学科を次々に新設した。

1988年までは11学科、修士課程11専攻だったが、学科再編により7学科に、1999年には8学科となった。大きな再編が実施されたのは2016年である。それまでの8学科（機械工学科、電気・電子工学科、情報・メディア工学科、建築建設工学科、材料開発工学科、生物応用化学科、物理工学科、知能システム工学科）を5学科に改組した。5学科は、機械・システム工学科、電気電子情報工学科、建築・都市環境工学科、物質・生命化学科、応用物理学科である。

工学部では、その教育目的として、高度な専門能力に加えて、創造力、批判力、自己学習力及び伝達力を併せた総合能力、即ち、人間力を持つ高度専門技術者を育成することを掲げている。研究面では社会ニーズに応え得る工学技術の創造・開発と、未来産業シーズとなる基礎工学研究を有機的に結合し、機動的に展開することにより、トップレベルの研究成果を発信することを目指す。その上で、地域社会及び国際社会の持続的発展に寄与すること、を謳っている。



文京キャンパス風景

「知」と「人」への愛掲げる

医学部の歴史はまだ新しい。国立の医科大学として福井医科大学が設置されたのは 1978 年であり、2 年後の 80 年に開学した。附属病院が開院したのは 83 年、看護学科が設置されたのは 97 年である。福井大学と福井医科大学が統合して福井大学医学部となったのは 2003 年である。理念として、真理を探究する「知への愛」と、人命を尊重し人間に共感する「人への愛」を掲げた。



医学部看護学科

4 番目の学部として 2016 年に誕生したのが国際地域学部である。グローバル化の進展によってどこにいても世界を意識しなければならない時代となり、世界とつながりながら、地域でよりよく暮らすために何が必要なのか？ そうした問いに真摯に向き合い、行動できる人間を育てていこうというのが、学部新設の狙いである。

少子高齢化やコミュニティの危機などの進行は、地域の中で深刻な課題となっている。また、経済のグローバル化は地域にも浸透し、企業のグローバルな展開が進むとともに、地域経済の活性化は急務の課題となっている。今日、社会が抱える課題の多くは、地域・国内・国際という異なるレベルに共通するものであり、それぞれ互いに関わりながら分かちがたく展開するという性格を持っている。学部では、地域の抱える諸課題を、構造的・重層的に捉え、地域が最も必要とする課題の解決とそれを担う人材育成を国際水準の教育で実現する。

キャンパスは本部のある文京キャンパス（福井市文京）と松岡キャンパス（永平寺町）の2カ所である。福井県の県庁所在地、福井市にある文教キャンパスは本部棟のほか、教育学部系、工学部系、国際地域学部系の建物が集まっている。松岡キャンパスには医学部、医学部附属病院など医学関係の施設、建物が集約されている。

トップの就職率誇る

福井大学では、就職率が国立大学の中でもトップクラスにある。就職率は14年連続で国立大学の中で1位であるほか、在職3年以内の離職率が10%を切っていること、企業等就職者の70%が大企業に就職していること、などを挙げて福井大学生が企業から高い評価を得ていると自賛している。

海外から福井大学への留学に関しては、大学で学位を取得する目的の正規生（2～4年間）、学術交流協定校からの交換留学生（6カ月または12カ月）、研究活動、または大学の修士・博士課程への進学を前提とした予備教育が目的の研究生（6カ月から12カ月）、教員研修留学生（18か月）、日本語・日本文化研修留学生（12か月）がある。



日本文化体験

正規留学生や1年間の短期留学生は、入学時に日本語のテストを受けてその能力によっ

て日本語のクラス別に配属される。大学院に進学する国費留学生に対しては 6 カ月間の日本語集中授業を実施するコースが用意されている。また、留学の種類によっていくつかの奨学金の制度がある。

留学生が安心して大学生活を送れるように指導教員、国際センター、国際課、学生が連携してサポートをしている。キャンパス内にも各種相談窓口や施設を設けている。



学生交流センター

学生数は学部が 3984 名、大学院が 944 名である。このうち外国人留学生は学部が 59 名、大学院が 72 名である。(2021 年 5 月現在) 教職員は教員が 706 名、職員が 1444 名の計 2150 名である。(以上 2021 年 7 月現在)

学長は上田孝典氏である。1986 年福井医科大学講師、92 年助教授、95 年教授、2003 年大学統合により福井大学医学部教授、医学部付属病院長、福井大学副学長、08 年医学部長などを経て 2019 年 4 月から現職。専門は内科学、血液学、腫瘍学、感染症学、痛風。

日文：滝川 進

写真：福井大学 Facebook